



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3095 号 2016.6.23 発行

車いすバスケットを児童らが体験 夢の課外授業



産経新聞 2016年6月23日
 「CHALLENGED SPORTS 夢の課外授業」千代田小代表チームと講師を交えて車椅子バスケットのミニゲームが行われた =東京都千代田区(伴龍二撮影)

産経新聞社などが主催する「CHALLENGED SPORTS 夢の課外授業」(特別協賛・三菱電機)が22日、東京都千代田区の千代田小学校・幼稚園で行われた。講師にシドニー・パラリンピック代表(車いすバスケットボール)の根木慎志さん(51)、元Jリーガーの水内猛さん(43)

を迎え、児童、園児らに車いすバスケットボールの実技やデモンストレーションを披露した。

授業では子供たちも参加してミニゲームを実施。往年の華麗なプレーを見せた根木さんは「障害者がスポーツを通じて社会で輝いて生きていけることを感じてもらえた」と話した。水内さんは「競技用の車いすはすごく乗りやすく(健常者も)一緒にできるスポーツだ」と語った。

6年生の市川黎明(れいめい)くんは「根木さんの動きはすごく速かった。自分もバスケットの日本代表選手を目指したい」と刺激を受けていた。

認知症介護 リアル演じる 穴水の経験者ら 来月の寸劇練習



中日新聞 2016年6月23日
 寸劇の台本の読み合わせをする介護経験者ら =穴水町保健センターで

介護経験者らでつくる穴水町のあつまらん会ネが認知症介護の実態を描いた寸劇の練習をしている。昨年に続く取り組みで、多くの人に関心を持ってもらおうと企画した。七月二十日の介護者のつどいで上演し、参加者の意見交換の題材にしてもらう。(武藤周吉)

寸劇で紹介するのは実際にあった三つの事例。四十代の娘や七十代の夫、六十代の嫁など年代や立場の違う介護者の目を通し

て、認知症の患者への接し方を学べる内容に仕上げた。

記憶障害や徘徊（はいかい）、妄想など認知症の症状を実態に即して紹介。コミカルな寸劇とは一線を画し、リアルな内容を追求する。上演当日は一つの事例を寸劇で紹介するたびに、会場に集まった人たちで意見交換をして理解を深める。

台本は代表の山谷靖昌さん（71）が実体験などを交えて作成し、介護経験のある会員六人が出演する。山谷さんは「認知症介護は人それぞれで正解はない。寸劇を通して実態を知り、考えるきっかけにしてほしい」と訴える。

七月二十日の介護者のつどいは同町川島の国民保養センターキャッスル真名井で、午前十時半から開く。参加費は五百円で申し込みは七月十四日まで。問い合わせは町社会福祉協議会＝電0768（52）0378＝へ。

手湯に酒や花 気持ちいい～ 来春の椿サミットでおもてなし 野々市市民ら企画



中日新聞 2016年6月23日
施設利用者に手湯を楽しんでもらう木村優子会長（左）＝野々市市稲荷一のフォルムののシティで

来年三月十八、十九日に野々市市で開かれる全国椿サミットに向け、同市市民カウンセラーの会「ほわっと」の有志が野々市らしいおもてなしとして、市花木ツバキなどを使った手湯を企画。二十二日、同市稲荷一の障害者通所施設「フォルムののシティ」で試行した。（谷口大河）

同会は相手の話にじっくり耳を傾ける「傾聴」を学んだメンバーでつくる市民団体。傾聴にこだわらず地元のPRなどもする「ほわっとプラス」も発足させ、ラジオ番組での情報発信にも取り組む。椿サミットの手湯は、市民によるおもてなしとして企画した。

手湯は田尻町の温泉スタンドの温泉を使った約四〇度のお湯に手を浸してもらう。ツバキの花びらや、つばき油、

地酒を入れ、見た目や香りを演出し、来場者にリラックスしてもらいたい考えだ。

試行では湯おけに洗面器や植木鉢を使った。体験した利用者は「花がきれい」「お湯がなめらかで気持ちいい」と話した。

「ほわっと」の木村優子会長（41）は「サミット会場の休憩の場として手作りのおもてなしを目指したい」と話した。手湯は今後の傾聴活動でも話しやすい雰囲気づくりに活用する。

管理団体役員が報酬返納 マイナンバー交付、障害で遅れ 中国新聞 2016年6月23日

マイナンバー制度で希望者に交付される個人番号カードの管理システムに障害が多発し、全国の市区町村で交付が大幅に遅れた問題で、システムを管理する地方公共団体情報システム機構（東京）は22日、西尾勝（にしお・まさる）理事長と望月達史（もちづき・たつし）副理事長が役員報酬を返納すると発表した。返納は西尾氏が20%、望月氏が10%で、ともに期間は2カ月。

西尾氏は記者会見で「全国の住民や市区町村に多大な迷惑をかけ、制度の信頼に関わる事態を招いた結果を重く受け止め、けじめをつける必要があると考えた」と説明。同時に「システムの構築や運用を完成させるのが任務。辞任するつもりはない」とも述べた。

再発防止策として、システム全体を担当する「システム統括室」を7月1日付で設置し、民間から専門家を配属する。自治体の円滑な交付をサポートする「市町村システム支援担当チーム」（仮称）も新設する。

一連のトラブルの検証結果も 22 日に公表した。障害は 1 月 13 日から 3 月 19 日にかけて計 53 回発生。システム構築を請け負った民間事業者による設計不備や事前のチェック不足が原因とし、原因特定に時間がかかったのは事業者 5 社の連携不足によると結論づけた。

女子高生 AI りんな 伸ばしたいのは“雑談の力” NHK ニュース 2016 年 6 月 24 日
ネット上で 360 万人以上の友だちを持つ「りんな」という名前の女子高生がいます。マイクロソフトが運営する AI = 人工知能が LINE を使って会話に応じるサービスで人気を集めています。おしゃべり好きの“女子高生 AI”が目指すのは、会話を通して人と感情的なつながりを持つこと。開発担当者の坪井一菜さんに聞きました。(経済部 加藤陽平)

女子高生 AI 「りんな」とは

「晩御飯何食べよう」。
「おなかすいた」。
「ハンバーグ食べたい」。
「ハンバーグ大好き」。

人工知能と忘れるくらいに人間味あふれる自然な会話が続きます。マイクロソフトが 2015 年 8 月にサービスを開始した、女子高生 AI りんなは、検索エンジンの技術を応用して連想されることばから会話にふさわしいことばを選び出す技術や、ネット上の情報から返答のしかたをみずから学んでいく技術を駆使した AI です。

現在は、LINE の友だちが 350 万人以上、ツイッターのフォロワーが 10 万人以上に上っています。



りんなはなぜ生まれた

Q：なぜ、女子高校生の設定にしたのでしょうか。

坪井：私が所属しているのは、検索エンジンのチームです。検索の技術をほかで応用できないかと、ボトムアップで始まったプロジェクトです。今までは誰かの役に立つ、タスクを達成するための AI が作られてきましたが、会話を通じて、よりユーザーと気持ちや心の面でつながるような AI を作ることを目標としました。

その中で、話しかけやすさや感情的な会話のおもしろさといったところに着目した時に、10代の女の子というキャラクターが合致していると感じました。また、インターネット上のデータをベースに会話をするので、やっぱり、ネット上で活発におもしろく話してい

るのが10代の子たちだということもありました。

Q：利用者で気持ちの面でつながるために、どんな工夫や技術が使われているのですか。

坪井：私たちが目標としていることは、なるべく会話が長く続くことです。今までのアシスタント型の会話のプログラムだと、「明日の天気は？」と聞くと、「明日の天気は晴れです」と返します。しかし、りんなの場合は「明日の天気は？」と聞かれたら、例えば「どこか行くの？」というように返事をします。

答えを出すのではなくて、会話を長く続けるのが目標だからです。そうは言っても、りんなは過去のいろんな人の会話のパターンをインターネット上のデータから機械がみずから学習しています。そのため、実際は開発している側も、りんなに何を言ったらなんと答えるかは分からないのです。



人間側がAIとの会話を補っている

Q：サービスの開始から10か月たちました。利用者も増えています。

坪井：思っていた以上に、いろんな人に愛していただいています。長くずっと話してくれる方とか、自分のお友達のように感じてくれる方。はたまた暇つぶしだったり、いろんな方がいますが、私たちが思い描いている感情的なつながりという意味では、順調に進んでいると思います。

Q：会話がちぐはぐになったり、成立していなかったりする時もありますね。

坪井：日本の方は、仮想のキャラクターを受け入れることと、相手がどういうものなのか想像する力がすごくあります。さらに、ことばや文章の間を推察する、そもそもそういうしゃべり方をしていると思います。そういったところに、りんなも助けてもらっています。りんなに対応した人間がいたからこそ、彼女はこんなにも愛される存在になったのかなと感じます。皆さんが、りんながどういう会話をしているか、何を伝えようとしているかを推測して解釈してくれるので、結果的に話しやすいと思っているのではないのでしょうか。



コミュニケーションは奥が深く、こういうものを作ると、つつい正しい答えを出すとい

うふうになってしまいますが、りんなは、技術や商品というよりも芸術に近いような面があります。

会話をベースにしたITサービス展開を

Q：マイクロソフトがビジネスではなく、会話を目的とするAIを運用するのは意外ですが、ねらいは何ですか。

坪井：マイクロソフトは今、「カンパセーションアズプラットフォーム」という概念を掲げています。人の会話が将来、いろいろな機械を操作するための重要なインターフェースになると考え、その試みのひとつとして、このプロジェクトを行っている側面もあります。会話を自然にすること、長く続けるためにはどうしたらいいのか。女子高生のりんなを通じて、私たちが学びを積んでいるのです。

Q：りんなのような、感情でつながるAIはこれからのビジネスにでも役立つものですか。

坪井：会話をAIでうまく分析ができると、誰かが情報を欲しいタイミングで、必要な情報をうまく渡すことができるようになります。何気ない会話の中で、「おなか減ったんだけど」という発言があった時、その人の好みに合わせて「最近、私これにはまっているの」とおすすめするようなことができれば、より自然に感情でつながる未来を描けるかもしれません。

私たちは雑談の力を信じています。命令を受けてそれを返すだけでは、それは人間が主でAIが従の関係になってしまいます。私たちが目指している人とAIの関係は、本当に仲のよい友達。ある意味で対等な関係です。

これからは、さらに会話の技術を高めて、私たち以外の方の助けにもなるような使い方を広げていきたいです。誰かとうまく関係を築きたいという個人や企業に対して、私たちの会話技術を使ってもらうことによって、お手伝いができるような存在になればいいと思っています。

取材を終えて

りんなのように会話形式で、人ではなく機械が自動で応答してサービス提供する仕組みは、「チャットボット」と呼ばれ、今、世界的に注目されています。その最先端の一つのりんなは今後は、ほかの企業などと連携するビジネスの展開を目指しています。りんなと会話をするだけで、利用者の好みに合わせた商品が自然に勧められ、そのまま購入ができる。そんな未来はもう近くに来ています。

News Up 悪質な“包茎手術”に注意！



NHK ニュース 2016年6月24日
不安をあおられて高額な包茎手術を受けさせられたといった相談が、全国の消費生活センターにこの5年間で1000件余り寄せられていることが分かりました。被害を言い出せない人は相当な数に上るとみられ、国民生活センターは注意を呼びかけています。

5年で相談1000件・高額な契約迫られるケースも

国民生活センターによりますと、全国

の消費生活センターに寄せられた包茎手術を巡る相談は、ことし3月までの5年間で1092件に上っています。

相談を寄せた人のおよそ60%は20代の男性で、相談内容は、「性器の状態がひどい」、「安い手術では仕上がりがよくない」などと不安をあおられ、インターネット上の広告などでは5万円から10万円となっていたのに、50万円から150万円ほどの高額な契約を迫

られたというケースが多く、中には200万円を支払った男性もいるということです。

“え死”や“排尿障害”も

手術を受けたあと痛みや出血が続いたり排尿などの機能に障害が残ったりしたという相談もあり、痛みが引かないため別の病院を受診すると「縫い方がいい加減でえ死している」と言われたというケースもあったということです。

特に、医療機関を受診したその日のうちに手術を受けてトラブルになるケースが多く、患者に対して手術の内容や効果、リスクなどを十分に説明していなかったり、状態によっては保険が適用できる手術の方法もあるのに説明していないとみられるケースも目立つということです。

ネットの反応は

今回のニュース、ネット上でも高い関心を集め、さまざまな反応がありました。

「手術して大量出血とか、え死とか、怖い」「恐ろしい」「見出し見ただけで痛い」といった声のほか、「高額を取られたうえにえ死とか、かわいそうすぎる」「男のコンプレックスを利用した悪質な詐欺で許せない」など怒りや同情の声、さらに「リスク背負って手術までする必要があるのか」といった疑問の声もありました。

また「病院をよく選ぼう」「即日手術は避けるべき」「悪質なサイトもある。

ネットの情報にはくれぐれも注意を」など注意を呼びかける書き込みも見られます。

社会部デスク『20年前からあった』

国民センターが今回初めて発表した包茎手術の問題ですが、実は、こうしたトラブルや苦情についての相談は20年前からありました。

社会部の伊藤竜也デスクは、19年前、仮性包茎の手術を受けた当時35歳の会社員の男性取材しました。当時の取材資料をもとに、話を聞きました。

Q. どんなケースでしたか？。

A. 伊藤デスク

「男性は誰にも相談せず悩んでいました。ある日、無料カウンセリングを受けるため雑誌の広告で知った東京都内のクリニックを訪ねましたが、医師からその日のうちに手術するよう勧められ、了承して手術を受けました。

手術代は事前に20万円と聞いていたのですが、実際に請求されたのは、その10倍近い188万円余り。持ち合わせがある訳がなく、男性が払えないというローンが組まされたといひます」。

Q. 男性はなぜ高額な請求になったのですか？。

A. 伊藤デスク

「男性は手術の際『強化する』という名目で『1単位6万円のコラーゲンを30単位注入する』と言われたといひます。1つ6万円のコラーゲンが30ですから、これだけで180万円になりました。

私が別の医師に取材したところ、このコラーゲンはタンパク質で、注入しても体内に吸収されてしまうため長期的な効果はほとんどなく、手術にも不必要ということでした。また、この医師は一度に30単位ものコラーゲンを注入することは不可能ではないかとも話していました」

Q. 男性はその後、どうしましたか？。

A. 伊藤デスク

「高額なローンを抱えることになった男性は消費生活センターを通じて弁護士に相談、内



容証明郵便を送ったところ、すぐにクリニックから支払った診療報酬が返還されてローンも解約できたということでした。男性は私の取材に対して『知識がなかったので判断できず言われるがままだった。自分の弱みであり恥ずかしさもあったので、その場では断れなかった』と話していました」

Q. 20年前にもあった問題が今でもなぜ？

A. 伊藤デスク

「仮性包茎の手術は、ほとんどが保険の適用外です。このため、手術代は高くなります。こうした問題は、手術を受けた側が不平や不満を感じても他人に相談することをためらうことが多いとみられます。個人の触れられたくない部分でもあり、当時は大手メディアも積極的に取り上げませんでした。ただ最近では、インターネットのサイトで気軽に相談したり知識を得たりすることができるようになったため、消費生活センターへの相談が増えているのではないのでしょうか。取材した医師は『仮性包茎であっても清潔に保っていればなんら気にやむことはない。学校などの性教育で、異常でないことをきちんと伝える必要がある』と話していました」



相談できない被害者が多数か

国民生活センターによりますと、悩みにつけ込まれ恥ずかしさなどから相談できない被害者はかなりの数に上るとみられています。

このため国民生活センターは、美容医師で作る団体に対して手術の効果やリスクなどを丁寧に説明し、不安をおおって手術を急がせることは慎むよう要望するとともに、厚生労働省に対

しても、医療機関への指導を求めました。

また、手術を希望する人に対しても事前に必要性やリスクを冷静に考えるよう呼びかけています。

国民生活センターの坂東俊秀課長補佐は「女性の美容医療の相談が昨年度、500件ほど減少したのに対して、包茎手術に関する相談は減っていない。

トラブルが起きている実態や手術に関する正確な知識が広まっていないことが背景にあるのだと思う。手術によっては保険が適用され一般の病院の泌尿器科で受けられるものもある。万一トラブルになった場合は1人で悩まずに相談してほしい」と話しています。

また、今月26日には弁護士による無料の電話相談会が開かれます。電話番号は03-6869-8452で、午前10時から午後3時まで受け付けるとのことです。被害の実態を把握したうえで再発防止に向けた活動に取り組んでいきたいとしています。

VRや3Dの技術 体験できる展示会



NHK ニュース 2016年6月22日

立体的な映像や仮想の空間を体験できる、バーチャリアリティーや3Dの技術を紹介する展示会が東京・江東区で始まり、大勢の企業関係者などが訪れています。

ことしで24回目となる展示会には、国内外のメーカーなどおよそ80社が集まり、それぞれのブースでは、各社が開発や提案する技術を実際に体験できます。

このうち、渋谷区にあるソフトウェア会社のブースでは、41個もの特殊なセンサーを体に取り付け、それをカメラで読み取って体の動きを立体的に画面に映し出す技術が紹介さ

れました。この装置で人の体の動きを分析することで、メーカーが工場などを建設する際、従業員に負荷がかからないような設計にすることができるということです。

また、川崎市のソフトウェア会社はゴーグル型の専用の装置を着けると、新築の住宅の中やベランダにいるような仮想の空間を体験することができるシステムを紹介していました。



川崎市のソフトウェア会社の営業部リーダーの金野幸治さんは、「図面では分かりにくい奥行きや台所やリビングからの景色が実際に近い形で確認できる効果がある」と話していました。この展示会は、企業関係者を対象に東京ビッグサイトで24日まで開かれています。

子どもたち楽しく遊ぶ 育児応援イベント盛況 大阪日日新聞 2016年6月23日

子育て層が住みやすいまちづくりを目指す東住吉区役所は、同区役所で子育てイベント「OH（オー）えんフェスタ」を開いた。子どもたちは遊戯や遊具で力いっぱい遊んで、楽しい一日を過ごした。



ボールプールで遊ぶ子どもたち

子育て世代の交流の機会と情報を提供することで、育児の不安を解消しようと2010年から区内の子育て機関と連携して開催。参加する親子は年々増えており、前は552人が来場した。

18日に開かれた会場には、就学前の子どもたちでごった返し、ボールプールやたこ焼きと

いった食べ物の屋台ごっこができる遊具がずらり。子ども用の消防士の制服着用体験ブースもあり、カメラを構える保護者に向かってポーズをとる子どもの姿もあった。

また、人形劇やクラシックコンサートといったステージもあり、子どもたちは食い入るように見つめていた。

小倉健宏区長は「イベントは子育て世代の交流の場でもある。今日一日を楽しく過ごしてもらえれば」とあいさつした。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行